
日立市地域福祉計画「ひたちあったかプラン」の
中間評価に伴うアンケート報告書

平成 29 年 2 月

日 立 市

I 調査の概要

1 調査目的

日立市地域福祉計画の中間評価として、計画に掲げた各施策の取組状況に関する認知度や満足度を把握し、計画推進の更なる適切化を図る。

2 回答者数

区分	調査の依頼方法	回答者数
日立市地域福祉計画推進委員会委員の所属団体関係	各委員に調査票の配布を依頼	178人 (36.3%)
コミュニティ単会関係	各会長に調査票の配布を依頼	197人 (40.1%)
インターネットモニター	各個人に調査への回答を依頼	116人 (23.6%)
合計		491人 (100%)

II 調査の結果

1 回答者の属性

- 50代以下が41.6%、60代以上が58.4%

(単位：上段は人、下段は%)

区分	20代	30代	40代	50代	60代	70以上	不明	計
委員の所属 団体関係	6 (3.4)	20 (11.2)	34 (19.1)	43 (24.2)	39 (21.9)	33 (18.5)	3 (1.7)	178 (100)
コミュニティ単会関係	-	4 (2.0)	13 (6.6)	21 (10.7)	75 (38.1)	84 (42.6)	-	197 (100)
INモニター	3 (2.6)	7 (6.0)	23 (19.8)	27 (23.3)	28 (24.1)	28 (24.1)	-	116 (100)
合計	9 (1.8)	31 (6.3)	70 (14.3)	91 (18.5)	142 (28.9)	145 (29.5)	3 (0.6)	491 (100)

※ INモニター：インターネットモニター（以下同じ。）

2 施策の認知度

1 安心と信頼のある地域づくり				平均点	順位
(1) 「情報提供・相談・サービス提供体制の整備」の認知度					
①	分かりやすい行政情報の提供	市報、ケーブルテレビ、インターネットなどで、地域福祉に関する情報を発信しています。	委員の所属団体関係	3.21	1
			コミュニティ単会関係	3.40	3
			ＩＮモニター	3.09	1
			全体	3.25	1
②	相談体制の充実	民生委員や福祉相談員、地域包括支援センターなどへ、地域福祉に関する相談ができます。	委員の所属団体関係	3.12	2
			コミュニティ単会関係	3.56	1
			ＩＮモニター	2.88	2
			全体	3.23	2
③	サービス提供体制の充実	認知症などの方も、「成年後見制度」や「日常生活自立支援事業」を利用して、福祉サービスを受けられます。	委員の所属団体関係	3.06	3
			コミュニティ単会関係	3.21	6
			ＩＮモニター	2.57	3
			全体	3.00	4
1 安心と信頼のある地域づくり				平均点	順位
(2) 「避難行動要支援者への支援」の認知度					
④	平常時の取組	要件を満たす方へ個別に通知をするなどして、「災害時等要援護者台帳」への登録を勧めています。	委員の所属団体関係	2.43	12
			コミュニティ単会関係	3.30	4
			ＩＮモニター	2.07	11
			全体	2.69	9
⑤	災害時の救援体制の整備	福祉ニーズを把握するため、行政職員、民生委員、ホームヘルパー、保健師などのチームが巡回訪問します。	委員の所属団体関係	2.47	10
			コミュニティ単会関係	3.24	5
			ＩＮモニター	2.17	10
			全体	2.70	7
1 安心と信頼のある地域づくり				平均点	順位
(3) 「地域の支え合い体制の充実」の認知度					
⑥	要支援者※への支援と連携 ※高齢の方、障害のある方、介護が必要な方など	民生委員や「あんしん・安全ネットワークチーム」が、安否確認や支え合い活動を行っています。	委員の所属団体関係	2.79	5
			コミュニティ単会関係	3.55	2
			ＩＮモニター	2.47	5
			全体	3.01	3
⑦	生活困窮者※への支援	就労に関する相談や指導、住居を失わないた	委員の所属団体関係	2.62	7
			コミュニティ単会関係	2.98	10

	※生活保護を受ける前段階にあるような方など	めの家賃相当額の支給、子どもの学習支援などを行っています。	I N モ ニ タ ー	2.27	8
			全体	2.67	10
2 参加と協働による福祉社会の実現				平均点	順位
(1) 「市民との協働（パートナーシップ）の促進」の認知度					
⑧	情報発信と参加機会の提供	「ひたちボランティアプラザ」が、ボランティアを受け入れたい個人・団体や活動グループの紹介を行っています。	委員の所属団体関係	2.58	8
			コミュニティ単会関係	2.78	11
			I N モ ニ タ ー	2.18	9
			全体	2.56	11
⑨	市民活動への支援と連携	日立市社会福祉協議会が、ミーティングスペースの貸し出し、ボランティア保険料の助成などを行っています。	委員の所属団体関係	2.44	11
			コミュニティ単会関係	2.66	12
			I N モ ニ タ ー	1.95	13
			全体	2.41	12
⑩	企業との連携	金融機関や生活協同組合が日立市と協定を結び、高齢の方、障害のある方、子どもなどの見守り活動を行っています。	委員の所属団体関係	2.31	13
			コミュニティ単会関係	2.55	13
			I N モ ニ タ ー	2.03	12
			全体	2.34	13
2 参加と協働による福祉社会の実現				平均点	順位
(2) 「人材の育成」の認知度					
⑪	リーダーの育成	日立市社会福祉協議会が、ボランティア活動を行う方の研修会や講座を開催し、リーダーの育成に取り組んでいます。	委員の所属団体関係	2.55	9
			コミュニティ単会関係	3.02	8
			I N モ ニ タ ー	2.37	6
			全体	2.69	8
⑫	学校における福祉教育の充実	福祉意識の向上を目的として、車いす体験、アイマスク体験、高齢者疑似体験などの福祉体験学習を行っています。	委員の所属団体関係	2.94	4
			コミュニティ単会関係	3.14	7
			I N モ ニ タ ー	2.53	4
			全体	2.92	5
⑬	生涯学習による福祉学習の充実	日立市社会福祉協議会が、「ボランティア・地域活動入門講座」を開催し、新たな担い手の育成に取り組んでいます。	委員の所属団体関係	2.73	6
			コミュニティ単会関係	2.98	9
			I N モ ニ タ ー	2.28	7
			全体	2.72	6

日立市地域福祉計画に掲げた13施策の認知度		平均点	—
※ 平均点は4段階評価による（中間値2.5）。 4点 知っている 3点 少し知っている 2点 あまり知らない 1点 知らない ※ 順位は、計画に掲げた13施策中の順位	委員の所属団体関係	2.71	—
	コミュニティ単会関係	3.10	—
	I N モ ニ タ ー	2.37	—
	全体	2.78	—

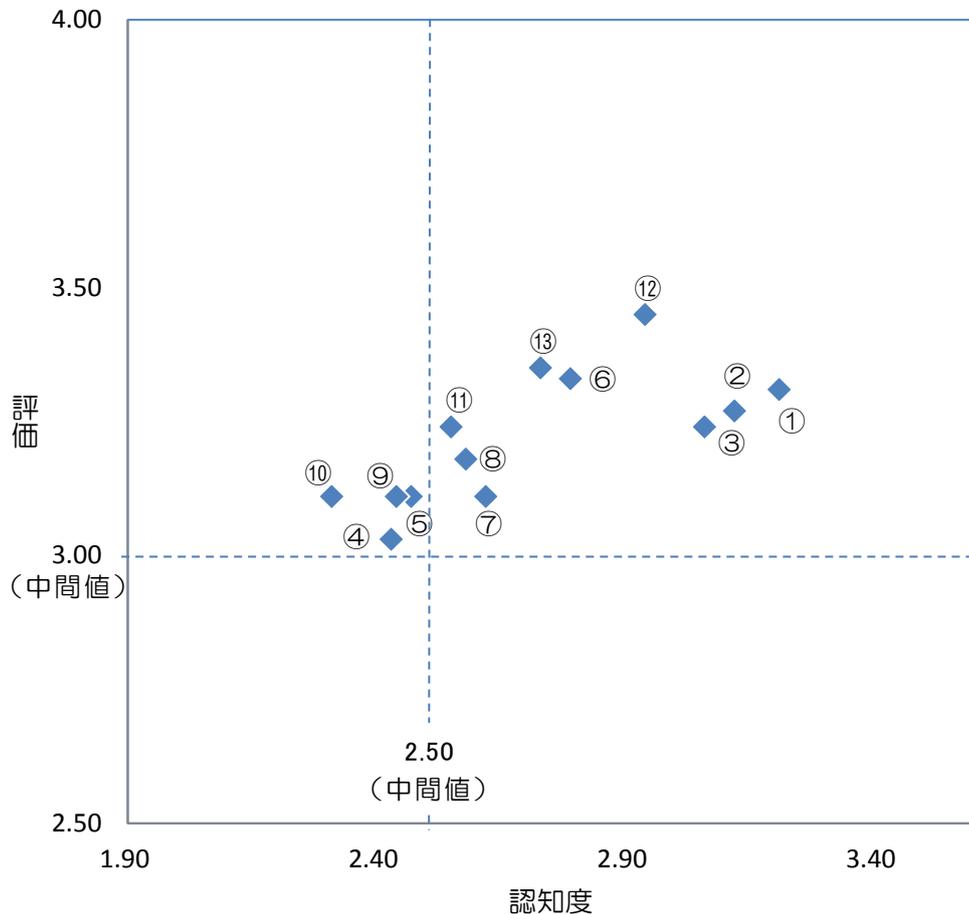
3 施策の評価

1 安心と信頼のある地域づくり			平均点	順位	
(1) 「情報提供・相談・サービス提供体制の整備」の評価					
①	分かりやすい行政情報の提供	市報、ケーブルテレビ、インターネットなどで、地域福祉に関する情報を発信しています。	委員の所属団体関係	3.31	4
			コミュニティ単会関係	3.37	8
			I N モ ニ タ ー	3.57	11
			全体	3.40	7
②	相談体制の充実	民生委員や福祉相談員、地域包括支援センターなどへ、地域福祉に関する相談ができます。	委員の所属団体関係	3.27	5
			コミュニティ単会関係	3.56	3
			I N モ ニ タ ー	3.57	12
			全体	3.46	4
③	サービス提供体制の充実	認知症などの方も、「成年後見制度」や「日常生活自立支援事業」を利用して、福祉サービスを受けられます。	委員の所属団体関係	3.24	6
			コミュニティ単会関係	3.36	10
			I N モ ニ タ ー	3.66	6
			全体	3.39	8
1 安心と信頼のある地域づくり			平均点	順位	
(2) 「避難行動要支援者への支援」の評価					
④	平常時の取組	要件を満たす方へ個別に通知をするなどして、「災害時等要援護者台帳」への登録を勧めています。	委員の所属団体関係	3.03	13
			コミュニティ単会関係	3.54	4
			I N モ ニ タ ー	3.62	9
			全体	3.37	9
⑤	災害時の救援体制の整備	福祉ニーズを把握するため、行政職員、民生委員、ホームヘルパー、保健師などのチームが巡回訪問します。	委員の所属団体関係	3.11	9
			コミュニティ単会関係	3.53	5
			I N モ ニ タ ー	3.66	7
			全体	3.42	6
1 安心と信頼のある地域づくり			平均点	順位	
(3) 「地域の支え合い体制の充実」の評価					

⑥	要支援者※への支援と連携 ※高齢の方、障害のある方、介護が必要な方など	民生委員や「あんしん・安全ネットワークチーム」が、安否確認や支え合い活動を行っています。	委員の所属団体関係	3.33	3
			コミュニティ単会関係	3.81	1
			I N モ ニ タ ー	3.85	2
			全体	3.65	2
⑦	生活困窮者※への支援 ※生活保護を受ける前段階にあるような方など	就労に関する相談や指導、住居を失わないための家賃相当額の支給、子どもの学習支援などを行っています。	委員の所属団体関係	3.11	12
			コミュニティ単会関係	3.36	9
			I N モ ニ タ ー	3.69	4
			全体	3.35	10
2 参加と協働による福祉社会の実現				平均点	順位
(1) 「市民との協働（パートナーシップ）の促進」の評価					
⑧	情報発信と参加機会の提供	「ひたちボランティアプラザ」が、ボランティアを受け入れたい個人・団体や活動グループの紹介を行っています。	委員の所属団体関係	3.18	8
			コミュニティ単会関係	3.20	13
			I N モ ニ タ ー	3.65	8
			全体	3.31	11
⑨	市民活動への支援と連携	日立市社会福祉協議会が、ミーティングスペースの貸し出し、ボランティア保険料の助成などを行っています。	委員の所属団体関係	3.11	11
			コミュニティ単会関係	3.25	11
			I N モ ニ タ ー	3.52	13
			全体	3.27	13
⑩	企業との連携	金融機関や生活協同組合が日立市と協定を結び、高齢の方、障害のある方、子どもなどの見守り活動を行っています。	委員の所属団体関係	3.11	10
			コミュニティ単会関係	3.23	12
			I N モ ニ タ ー	3.68	5
			全体	3.30	12
2 参加と協働による福祉社会の実現				平均点	順位
(2) 「人材の育成」の評価					
⑪	リーダーの育成	日立市社会福祉協議会が、ボランティア活動を行う方の研修会や講座を開催し、リーダーの育成に取り組んでいます。	委員の所属団体関係	3.24	7
			コミュニティ単会関係	3.48	6
			I N モ ニ タ ー	3.61	10
			全体	3.43	5
⑫	学校における福祉教育の充実	福祉意識の向上を目的として、車いす体験、アイマスク体験、高齢者疑似体験などの福祉体験学習を行っています。	委員の所属団体関係	3.45	1
			コミュニティ単会関係	3.69	2
			I N モ ニ タ ー	3.92	1
			全体	3.66	1
⑬	生涯学習による福祉学習の充実	日立市社会福祉協議会が、「ボランティア・地域	委員の所属団体関係	3.35	2
			コミュニティ単会関係	3.43	7

	活動入門講座」を開催し、新たな担い手の育成に取り組んでいます。	I N モ ニ タ ー	3.72	3
		全体	3.47	3
日立市地域福祉計画に掲げた13施策の評価			平均点	—
※ 平均点は5段階評価による(中間値 3.0)。 5点 良い 4点 やや良い 3点 ふつう 2点 やや悪い 1点 悪い ※ 順位は、計画に掲げた13施策中の順位	委員の所属団体関係		3.22	—
	コミュニティ単会関係		3.45	—
	I N モ ニ タ ー		3.67	—
	全体		3.42	—
4 認知度と評価の関係				

委員所属団体関係



【凡例】

- | | |
|-----------------|----------------|
| ① 分かりやすい行政情報の提供 | ② 相談体制の充実 |
| ③ サービス提供体制の充実 | ④ 平常時の取組 |
| ⑤ 災害時の救援体制の整備 | ⑥ 要支援者への支援と連携 |
| ⑦ 生活困窮者への支援 | ⑧ 情報発信と参加機会の提供 |

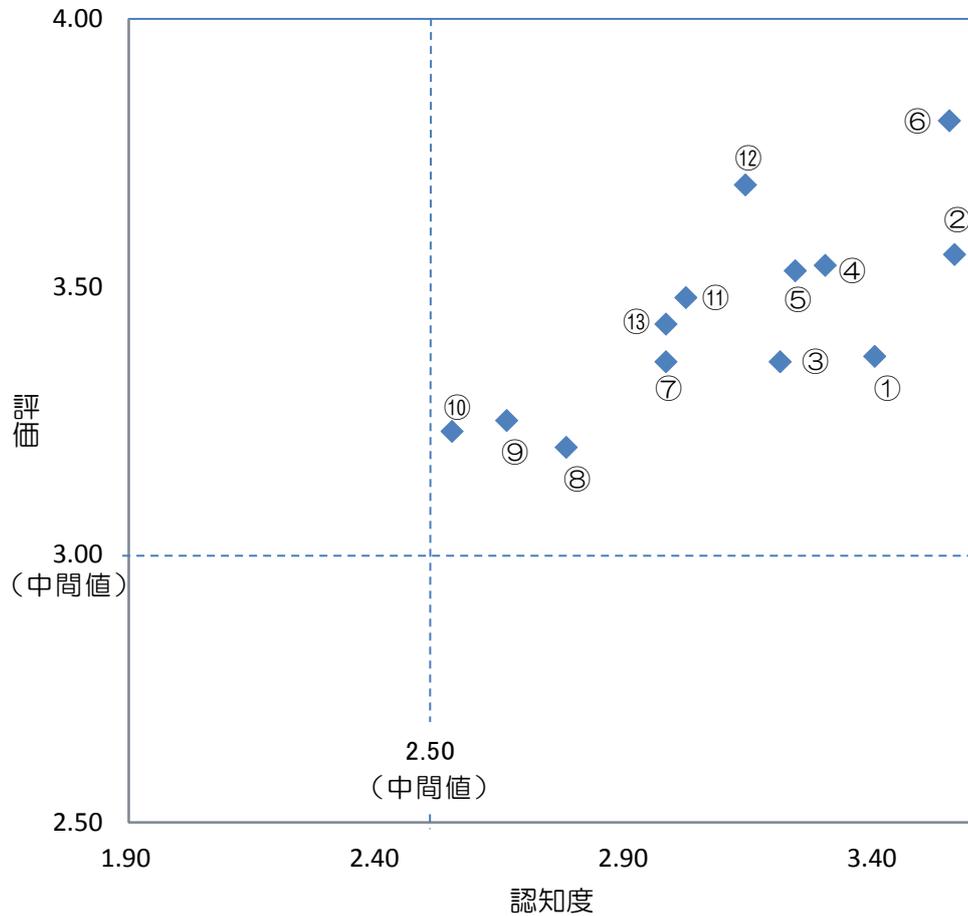
- | | |
|------------------|-----------------|
| ⑨ 市民活動への支援と連携 | ⑩ 企業との連携 |
| ⑪ リーダーの育成 | ⑫ 学校における福祉教育の充実 |
| ⑬ 生涯学習による福祉学習の充実 | |

ア 全体的に認知度、評価ともに低いが、評価は全ての施策で中間値を上回った。

イ 認知度が中間値を下回った施策は、「避難行動要支援者への支援」に関するもの（④・⑤）と「市民との協働の促進」に関するもの（⑨・⑩）である。

ウ ほかの回答者区分と比較して評価の順位が低い施策は、「④平常時の取組（避難行動要支援者への支援）」（13位）と「⑦生活困窮者への支援」（12位）である。

コミュニティ関係



【凡例】

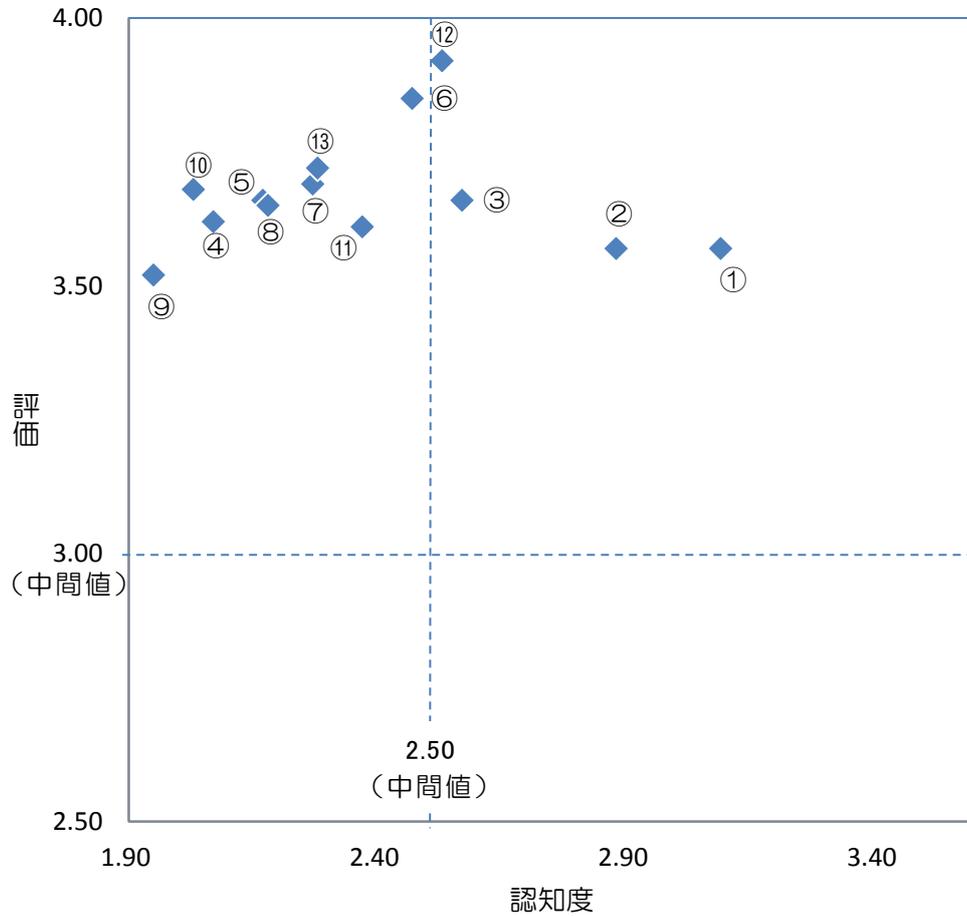
- | | |
|------------------|-----------------|
| ① 分かりやすい行政情報の提供 | ② 相談体制の充実 |
| ③ サービス提供体制の充実 | ④ 平常時の取組 |
| ⑤ 災害時の救援体制の整備 | ⑥ 要支援者への支援と連携 |
| ⑦ 生活困窮者への支援 | ⑧ 情報発信と参加機会の提供 |
| ⑨ 市民活動への支援と連携 | ⑩ 企業との連携 |
| ⑪ リーダーの育成 | ⑫ 学校における福祉教育の充実 |
| ⑬ 生涯学習による福祉学習の充実 | |

ア 全体的に、幅広い活動の担い手として、施策の認知度が高い。

イ 「市民との協働の促進」に関する施策（⑧～⑩）の認知度の順位が低いのは、ほかの回答者区分と同様の傾向である。

ウ 評価の順位は、「④平常時の取組（避難行動要支援者への支援）」が4位と高く、「⑧情報発信と参加機会の提供（市民との協働の促進）」が最下位という点に特徴がある。

インターネットモニター



【凡例】

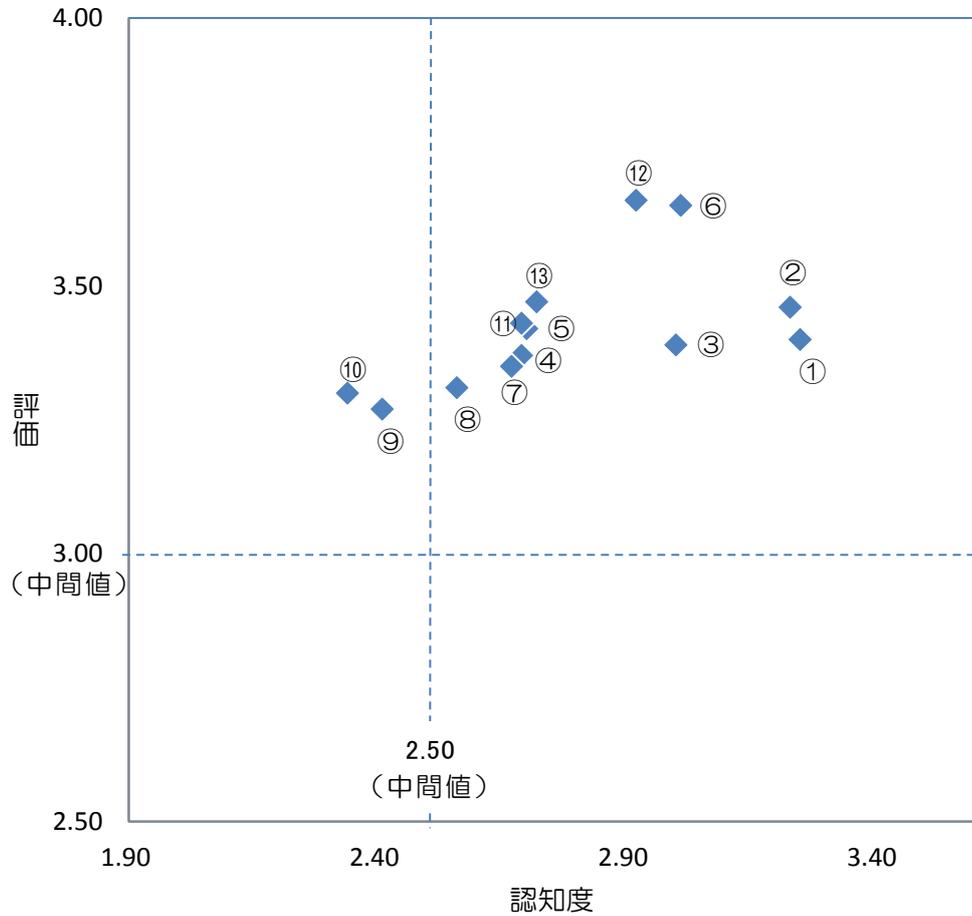
- | | |
|------------------|-----------------|
| ① 分かりやすい行政情報の提供 | ② 相談体制の充実 |
| ③ サービス提供体制の充実 | ④ 平常時の取組 |
| ⑤ 災害時の救援体制の整備 | ⑥ 要支援者への支援と連携 |
| ⑦ 生活困窮者への支援 | ⑧ 情報発信と参加機会の提供 |
| ⑨ 市民活動への支援と連携 | ⑩ 企業との連携 |
| ⑪ リーダーの育成 | ⑫ 学校における福祉教育の充実 |
| ⑬ 生涯学習による福祉学習の充実 | |

ア 全体的に、施策の認知度は低いが、評価は高い。

イ 施策の認知度が中間値を上回ったのは、「情報提供・相談・サービス体制の整備」に関するもの（①～③）と「⑫学校における福祉教育の充実」である。

ウ 「⑨市民活動への支援と連携（市民との協働の促進）」は、認知度（1.95点）、評価（3.52点）ともに、13施策のうちで最下位であった。

全体



【凡例】

- | | |
|------------------|-----------------|
| ① 分かりやすい行政情報の提供 | ② 相談体制の充実 |
| ③ サービス提供体制の充実 | ④ 平常時の取組 |
| ⑤ 災害時の救援体制の整備 | ⑥ 要支援者への支援と連携 |
| ⑦ 生活困窮者への支援 | ⑧ 情報発信と参加機会の提供 |
| ⑨ 市民活動への支援と連携 | ⑩ 企業との連携 |
| ⑪ リーダーの育成 | ⑫ 学校における福祉教育の充実 |
| ⑬ 生涯学習による福祉学習の充実 | |

- ア 「市民との協働の促進」に関する施策（⑧～⑩）、「⑦生活困窮者への支援」と「④平常時の取組（避難行動要支援者への支援）」は、認知度、評価ともに低い。
- イ 「①分かりやすい行政情報の提供」（認知度 1 位、評価 7 位）や「③サービス提供体制の充実」（認知度 4 位、評価 8 位）は、認知度の高さに評価が伴っていない。
- ウ 「⑫学校における福祉教育の充実」と「⑥要支援者への支援と連携」は、認知度

が高い上、評価が突出している。

5 自由意見の主なもの

(1) 委員の所属団体関係とコミュニティ単会関係から

1 安心と信頼のある地域づくり

(1) 「情報提供・相談・サービス提供体制の整備」について

ア 情報提供の充実等に関すること。

- ・ もっと積極的にPRすべきである。
- ・ 高齢になるにつれ、自分から情報を得ようとしなくなる。
- ・ まず、どこに相談すればよいのかという情報が足りない。
- ・ 知っていても活用していない人が多い（必要性を感じない、敷居が高い）。
- ・ 本当にサービスを必要とする人に情報が届いていないことが多い。
- ・ 情報量が多すぎて、誰に相談してよいのかが分かりにくい。など

イ 地域において、相談に対応するための人員体制を整備する必要がある。

ウ 市職員自身ももっと積極的に表に出て活動してほしい。

1 安心と信頼のある地域づくり

(2) 「避難行動要支援者への支援」について

ア 要支援者の登録制度を理解できない（又は拒絶する。）潜在者が多くいる。

イ 災害時に、実際に支援に向える体制になっているのか疑問である。

ウ 行政が持つ個人情報をも地域と共有し、対応していくことが理想である。

1 安心と信頼のある地域づくり

(3) 「地域の支え合い体制の充実」について

ア あんしん・安全ネットワークのチーム作りが難しい（地域の高齢化、理解不足）。

イ 安否確認は行われているが、地域の支え合いというレベルに達しているか。

ウ 地域のつながりに強弱があり、身近な人でも生活困窮状況の把握が難しい。

2 参加と協働による福祉社会の実現

(1) 「市民との協働（パートナーシップ）の促進」について

ア 市民が参加できる機会の提供、市民活動への支援と連携については、情報が少なく、理解している人が少ないように思う。

イ 企業との連携は、もっと幅広い業種と連携すべきである。

ウ 販売員が訪問時に一声掛ける活動は、好ましいことである。

2 参加と協働による福祉社会の実現

(2) 「人材の育成」について

ア ボランティア等に関係していないと、募集などの情報が入ってこない。

イ 福祉の心を育むには、子供のときの教育が大事であり、社会における個人の義務を学ぶことが必要である。

ウ 福祉の生涯学習に多くの市民が参加し、一人でも担い手が増えることを望む。

日立市の地域福祉全般について

ア 地域の課題等に関すること

- ・ 同じメンバーが活動していて、新しい人が参加してこない。サービスは受けるのに、一緒に活動してくれないのは寂しい。
- ・ 町内会からの脱会、子ども会の解散等、地域との関わり合いを避ける人たちが増えている。近所での付き合いがなければ地域福祉もうまくいかない。
- ・ 地域参加＝負担という感覚でいる人が多い。気軽に楽しく参加できるような場所を作っていくことが必要だと思う。
- ・ 社会福祉募金、赤い羽根募金、常会・町内会の会費等、自分には必要ないとの考え方が広がっている。
- ・ ひとりひとりが安心して暮らしていくための意識を持ち、情報を得たり、地域と関わりを持ったりすることが大切だと思う。
- ・ ボランティア活動を行っている人が恩恵を感じるような仕組みも必要ではないか。
- ・ 安否確認を主に行い、ベターなサービスにつなぐ、地域力でサポートを行う、多職種が連携し支援を行うことなどが求められる。
- ・ 近所に気軽に行ける「集える場所」があったらいいと思う。
- ・ 空き家を活用できれば、老若男女が気軽に立ち寄り、地域活性化につながる。
- ・ 地域で、今回のアンケート項目について、みんなで話し合う必要がある。

イ 行政や体制等に関すること

- ・ 地域福祉活動の充実のため、人的及び財政的支援を積極的に推進してほしい。
- ・ 地域住民を指導する能力開発、人材育成が大事である。要支援者の困りごとを発見し住民とともに解決に当たるため、住民を組織化し不足する社会資源を作り出すといった極めて高度な能力が求められる。
- ・ 実施、実行は一人一人であることの認識を促すような地域支援が大切である。
- ・ コミュニティ、社協、民生委員の連携や協働が不十分な地域がある。
- ・ 地区社協とコミュニティ単会の合体後、うまく組織が機能しているのか。
- ・ 自治会、学校、交流センターぐるみの取組が必要である。
- ・ マンション等の自治会設立を促進すべきである。
- ・ 交流センターの利用方法を変えてみてはどうか。例えば、自由に入出りできて、いつでも話を聴いたり、聴いてもらえたりする「サロン」のようなもの。
- ・ 道路事情が悪く、公共交通機関が乏しいことが高齢者の行動を制限している。
- ・ 健康年齢を高めるような行事を作ってほしい。
- ・ 市報で記事を見かけても、対象は関係者であり、自分には関係ないだろうと読み流してしまう。
- ・ 市報で地域福祉に関する特集を組んではどうか。
- ・ OA機器を持っていない高齢者に配慮してほしい。
- ・ 福祉のまちであるのに、ほかの市で当たり前の制度をやらないのはおかしい。

(2) インターネットモニターから（施策の区分なし）

ア 情報提供に関すること

- ・ 今まで関心を持つような状況になかったが、情報に触れる機会も少なかった。
- ・ 本当に困っている人にこういう取組があることを広めて欲しい。
- ・ 初めて知る項目が多い。相談したいと思っている人は多いと思う。
- ・ テレビ、市報などで定期的に紹介した方がよい。
- ・ あまりにも知らないことだらけで、驚いてしまいました！
- ・ 福祉に携わっている人のみが知っている。
- ・ 当事者でなければ分からないことが多いが、事前に理解するのは大変であり、いざというときに「たらい回し」にならないようにしてあればよい。

イ 地域の課題等に関すること

- ・ 地域では、個人同士のつながりまでは分からない場合が多い。
- ・ 独り住まいで元気に生活している人にも手を回してほしい。孤独死が心配。
- ・ 軽度認知症患者が参加できる地域ぐるみの活動がほしい。
- ・ 近隣の高齢化で将来が不安である。空き家だらけになりそうである。
- ・ 弱い立場の人たちを支えるスタッフも高齢化している。世代交代が必要。
- ・ 「与える福祉」も大切だが「引き出す福祉」も大切である。
- ・ 安心して暮らせるまちづくりを目指す上で、ボランティア等の増強は必須。
- ・ 定年退職後、「なにをしたら良いか」迷ったことがある。該当する退職者各人宛てに、ボランティア・地域活動入門講座の案内を送付してはどうか。
- ・ 特定のボランティアに参加すると、将来高齢になって、お世話になるときに使えるポイント制度があればよいのではないか。
- ・ 未経験者を率先して選任し、率直な意見を聞くことで、活性化するのではないか。経験者は未経験者の意見を聴き、方針をまとめる程度が賢明ではないか。

ウ 行政や体制等に関すること

- ・ 町内会や社協に丸投げで、災害時は市や町内会のサポートは期待できない。
- ・ 市の地域福祉の取組は、具体性がなくおざなりで、頼りになるとは思えない。
- ・ 将来を担う子供たちへの教育支援（経済的支援）をもっと充実させてほしい。
- ・ 交流センターを起点として、職員が入っていきネットワークをいかしながら、ボランティア活動を支えてはどうか。
- ・ 市職員、教職員などは、定年後あまり地域に溶け込まないという声をよく聞く。「公」をよく知っている方こそ地域のリーダーとなるべきである。
- ・ ボランティアグループの活動内容、連絡先、市役所窓口等々を要約した一覧表が、市報に掲載されるとよい。
- ・ ボランティアやNPOの育成を活発化することが、無駄に予算を使わず、高齢者や生活困窮者の自立につながるのではないか。
- ・ 社会福祉協議会、まちづくり、民生委員、コミュニティの役割が重複しないよう、そしてボランティアが超負荷とならないように整理してほしい。

日立市地域福祉計画「ひたちあったかプラン」の
中間評価に伴うアンケート報告書

平成 29 年 2 月

発 行 日立市保健福祉部社会福祉課

電 話 0294 (22) 3111(代)

URL <http://www.city.hitachi.lg.jp>
